

# 退院時連携に関する専門職からの意見聴取の途中経過

## グループワークで出てきたキーワード

- ▶ 本人が「不安なく」退院を迎える。  
(病気・症状・今後の経過に対する適切な説明、退院後の相談体制、退院後の支援体制、急変時の対応方法や医療機関の受け入れなど)
- ▶ 本人が「納得して」退院を迎える。  
(治療内容・方針、説明内容・方法(カンファレンス含む)、専門職の接し方など)
- ▶ 「望む場所への退院」「本人の状態や状況にあった退院先の選択」ができる。  
(患者の思いへの傾聴、在宅関係者を交えた適切な退院先の検討、地域資源とその有する機能の適切な把握など)

## 目指す姿(案)

- ▶ キーパーソンが適切に関わった上で、本人が納得して、不安なく、適切な場所(本人が望む場所、本人が納得した上で状態や状況に応じて選択される場所)に退院することができる。

## (仮) 目標

### 【目標 1】

本人が「不安なく」退院を迎えることができる。

### 【目標 2】

本人が「納得して」退院を迎えることができる。

### 【目標 3】

「望む場所への退院」「本人の状態や状況にあった退院先の選択」ができる。

以下の①②③④の策定に向けて、現在、「仮目標別にみた必要要素」を検討中

### 【目標 1 の必要要素】

- 1 病気・症状・今後の経過に対して、適切な説明が行われている。
- 2 病院と在宅関係者間で、治療方針やケア方針が統一されている。
- 3 相談できる体制があり、かつ、患者・家族がアクセスしやすい状況となっている。  
(相談できる担当者の明確化、窓口の明確化、相談がしやすい環境づくり)
- 4 本人・家族が、退院後の生活をイメージできている。
- 5 退院後の状態や状況に応じた適切な支援体制が準備できている。
- 6 退院後に起こり得る事象を本人・家族が知っており、かつ、その対応方法を理解している。  
(緊急時の連絡先、対応方法など)
- 7 急変時の入院医療機関での受け入れが可能であることを知っている。

### 【目標 2 の必要要素】

- 1 患者の意向/価値観/考え方が表出(表明)されている。
- 2 患者の意向/価値観/考え方を対応した専門職が傾聴し、理解している。
- 3 患者の意向/価値観/考え方を、病院及び在宅関係者間で共有している。
- 4 患者が必要とする情報が専門職から適切に提供されている。
- 5 本人の意向に沿った様々な提案が行われている。  
(自宅退院が困難な場合の代替案などを含めて)

### 【目標 3 の必要要素】

- 1 退院先に関する患者の意向を傾聴し、理解している。
- 2 在宅関係者を交えた適切な退院先の検討が行われている。
- 3 病院関係者が、地域資源(機能を含む)を適切に把握している。
- 4 関係者が、患者の状態や家族の状況等に応じて適切に地域資源を紹介できている。

① 目指す姿と現状から課題を抽出する

② 抽出された課題の中から、優先的に取り組むべき課題を設定する

③ 設定された優先課題に対し、具体的目標と指標を設定する

④ 対策を検討する